

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	1.新たな価値を創出する産業づくり
施 策	(1) ものづくり・しくみづくりの強化

■現状と課題

本市の工業は、豊富な電力、水資源と勤勉な労働力を背景としながら、医薬品や医薬品関連産業をはじめ一般機械、電子部品などの製造業を中心に、その優れた技術と事業所の集積により日本海側有数の工業都市として発展してきました。

特に本市の基幹産業の一つである医薬品製造業は、300年以上の歴史と高い技術力を背景に、全国の中でも生産金額が毎年、最上位層に位置しており、今後も、医薬品製造業や医薬品関連産業のさらなる発展を図っていく必要があります。

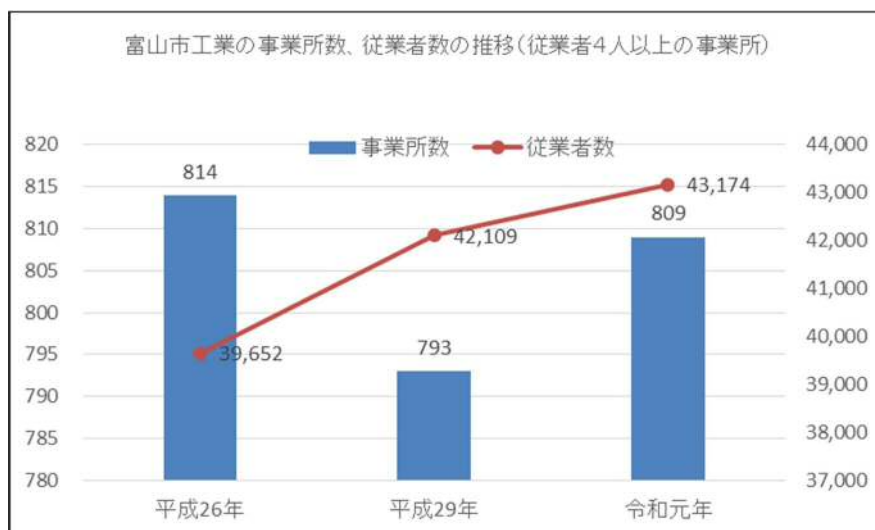
また近年、世界的な規模で急速に進展する第4次産業革命と呼ばれるAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ビッグデータなどの技術革新が、ものづくり現場における生産性の向上などの経済活動に変革をもたらすとされており、このような状況の中で、本市の産業は、その優れた技術力を背景として、次世代自動車、ロボットといった次世代産業への参入をさらに推進するとともに、脱炭素化に向けた産業構造の転換にも対応していく必要があります。

本市の企業が、このような社会経済情勢の変化にも対応し、企業が市場競争力を確保していくためには、生産性を向上するための設備の高度化や環境負荷を低減する先端設備の導入、優れた人材の育成・確保による経営基盤の強化、独創的な新技術・新商品の開発等による経営革新が急務となっています。

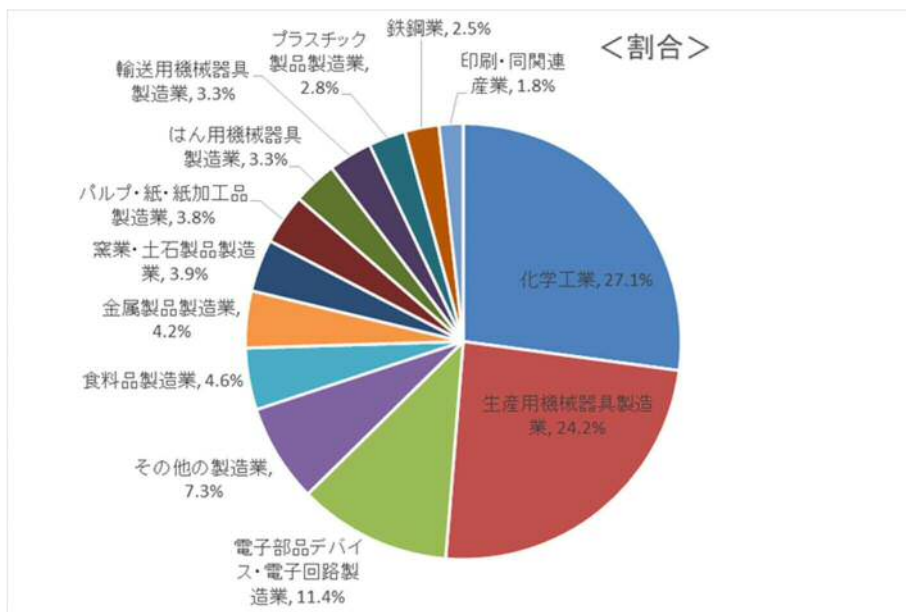
地域の顔である商店街については、大型店との競合やインターネット販売の市場拡大、後継者不足等により、大変厳しい環境にあります。大きく変化した都市構造も踏まえ、商業者自らの意識改革を進め、魅力ある商業空間をどのように創出し、賑わいを取り戻していくかが課題となっています。

また、少子化による人口減少が進行する中で、今後、人手不足がより深刻化することから、ICT（情報通信技術）やIoTなどの技術の導入による労働生産性の向上や、女性や障害者、高齢者などの多様な人材の活躍の機会を提供する付加価値の高い産業の振興を図ることが求められています。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大により多くの企業が事業活動に影響を受けたことを踏まえ、感染防止のための新しい生活様式や多様な働き方に対応するための環境整備や経営改革が急がれます。



平成30年度産業中分類製造品出荷額等(従業者4人以上の事業所) <製造品出荷額> 145,782,580万円



■ 目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(再掲Ⅱ-2-(1))	中心市街地(中心商業地区、富山駅周辺地区)の歩行者数	富山市中心市街地活性化基本計画に掲げる目標数値の達成を目指す。	未定 (次期中心市街地活性化基本計画(令和4年度～令和8年度)と整合をとる)	未定 (次期中心市街地活性化基本計画(令和4年度～令和8年度)と整合をとる)
製造品出荷額等	工業統計における従業者4人以上の事業所の年間製造品出荷額等	第2期富山市工業振興ビジョンに基づき年平均1%程度の増の達成を目指す。	14,578億円 (平成30年)	15,786億円
事業所の新規開業率	経済センサスにおける新規開業率(全産業)	新規開設の事業所数増により新規開業率の増加を目指す。	5.7% (令和元年)	7.0%
従業者数(全産業)	経済センサスにおける従業者数(全産業)	工業振興ビジョンに基づく総合的な施策の推進により、少子化による人口減少が進展する中であっても現状維持を目指す。	217,688人 (平成28年)	220,000人

■施策の方向

①商工業等の振興

北陸新幹線開業や市街地再開発事業の進捗、路面電車の南北接続事業などにより、大きく変化した都市構造を踏まえ、本市の商業振興策の指針となる商業振興活性化プランの策定を検討するなど、経済団体、商業者、商店街団体、行政等が連携を図りながら、地域経済の活性化に努めます。

また、社会・経済情勢が目まぐるしく変化する中、工業都市として製造業を中心とする本市の産業基盤をさらに発展させ、地域経済の活性化と雇用機会の拡大を図るため、今後の本市の工業振興施策の指針となる工業振興ビジョンを必要に応じて改訂し、同ビジョンに基づき総合的な施策の推進に努め、力強く活力ある地域経済の持続的な成長を目指します。

また、医薬品や機械、電子部品等の産業集積による高い技術力を背景に、成長が見込まれる次世代産業への参入や、さらなる産業の重層化を図るため、企業による設備投資等への支援に努めます。

さらに、製造業や介護分野、農業分野等において労働生産性の向上を図るため、ICTやIoT、AI、産業用ロボットや介護ロボット等のイノベーション技術の導入を支援します。

また、市場の変化を敏感に捉え、新たなビジネスモデルの創造を目指すチャレンジ精神にあふれる企業の新たな価値、商品、サービスを創出する未来志向型産業に対する育成支援に努めます。

②中小企業の経営基盤安定・強化への支援

中小企業の経営基盤の安定・強化においては、金融・経営の両面にわたる対策が必要であることから、景気動向や中小企業者のニーズを的確に捉えながら、中小企業向け融資制度や経済団体など関係機関との連携により、経営指導・経営相談の充実や有益な情報の収集・提供に努めます。

③商店街の活性化

・中心商店街の活性化

中心市街地活性化の鍵となる中心商店街は、きめ細かな顧客サービスや、時代に合った選び抜かれた商品の販売などにより、顧客の心を引き付ける商業空間を創造することが求められていることから、意欲のある商店街や商業者が行う取組に対し、支援します。

また、ユウタウン総曲輪やSOGAWA BASEなど、人をまちなかへと吸引する力のある施設が相次いで誕生したことから、相乗効果により、中心商店街等での回遊性向上や来街者の滞留時間の延長につながるよう努めます。

・地域商店街の活性化

地域商店街は、地域コミュニティの核として地域住民の生活に重要な役割を担っていることから、活性化を図るための、地域の特性を生かした個性ある取組に対し、支援します。

④コミュニティビジネスへの支援

地域のさまざまな社会的課題の解決のためにNPOや商業者団体、意欲ある農業法人などが行うコミュニティビジネスの支援に努め、持続可能な取組となることを目指します。

■市民に期待する役割

- * 地域の商店街での商品の積極的な購入。
- * 商店街の各店舗による地域貢献や魅力ある商業空間の形成。
- * 地域の商店街が行う活動への積極的な参加。
- * 商店街が主体となった賑わいの創出。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成 29 年度～令和 3 年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和 4 年度～令和 8 年度)
企業立地奨励事業	企業による設備投資等に対する支援の実施	事業の継続実施
事業承継支援事業	中小企業が行う事業承継に対する支援の実施	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
1 1	住み続けられるまちづくりを
1 2	つくる責任つかう責任

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	1.新たな価値を創出する産業づくり
施 策	(2) 企業の誘致・拠点化支援

■現状と課題

ICT（情報通信技術）の高度化や、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行などを背景に、大都市ではなく地方で生活し、働くことの価値が見直され、多くの企業がリスク分散の観点から地方都市に進出する動きがある中、本市は、北陸新幹線など高速交通網が整備されていることに加え、豊富な水資源や暮らしやすさ、勤勉な土地柄であることなど県外企業にとって魅力ある地域といえます。

このことから、需要に見合う企業用地を確保するため、富山西インターチェンジ周辺地区で第2期呉羽南部企業団地約25ヘクタールの整備を平成28年度に着手し、令和3年度（一部令和2年度）から分譲を開始しています。

当面は当団地の早期完売に向け、積極的な企業誘致活動を行っていく必要がありますが、一方で、完売後の企業用地に関する需要を見据えながら、今後の需要の受け皿となる企業用地の確保に向け、新たな団地造成及びその手法について検討していく必要があります。

また、進出企業を含めた既存企業に対する支援を強化し、「面倒見のよい市」を目指したサービス体制の充実も引き続き重要となっています。

企業団地・卸商業団地一覧

（令和3年4月1日現在）

団地名	設立	所在地	面積（㎡）	企業数
富山機械工業センター(協)	S35	新庄本町、向新庄町	119,572	24
(協)富山問屋センター	S37	問屋町	207,609	47
富山市第二機械工業センター(協)	S42	古寺、流杉	65,535	12
富山市第三機械工業センター(協)	S44	水橋伊勢屋	108,330	6
富山企業団地(協)	S48	水橋金尾新	295,278	28
(協)富山トラック輸送センター	S52	上野	24,844	20
富山流通団地(協)	S55	八日町	43,844	18
(協)とやまオムニパーク	S60	南央町	130,555	24
富山市四方チャレンジ・ミニ企業団地	H2	今市	9,657	8
四方テクニカルパーク	H3	四方荒屋	58,886	28
草島工業団地	H6	草島	78,825	11
水橋リバーサイドパーク	H6	水橋肘崎、水橋市田袋	138,960	9
上条工業団地	H7	水橋石割、水橋田伏、水橋北馬場	135,446	6
金屋企業団地	H11	金屋	254,464	30
呉羽南部企業団地	H23	境野新、池多、北押川	260,198	19
熊野北部企業団地	H23	小中	39,597	2
大沢野機械工業センター(協)	S35	高内	95,300	6
中大久保企業団地	H7	中大久保	217,625	18
大沢野西部企業団地	H21	西塩野、加納	23,980	1
八尾機械工業センター(協)	S35	八尾町福島	33,275	5
富山八尾中核工業団地	S60	八尾町保内	1,937,314	29
婦中機械工業センター(協)	S45	婦中町千里	140,219	5
婦中铁工業団地(協)	S45	婦中町萩島	90,812	11
宮野工業団地(協)	S50	婦中町下井沢、広田	176,000	7
婦中町臨空工業団地	S60	婦中町増田、板倉、添島	375,000	10
婦中企業工業団地(第1期)	H元	婦中町中名、道場	62,840	13
婦中企業工業団地(第2期)	H5	婦中町道場、下井沢	252,458	12
富山イノベーションパーク	H10	婦中町島本郷	191,901	16
西本郷企業団地	H23	婦中町西本郷	79,724	14

(令和3年5月現在)

団地名	状況	所在地	面積 (㎡)	区画数
呉羽南部企業団地(第2期) Dブロック	R2分譲済	境野新、平岡	23,488	1
呉羽南部企業団地(第2期) Eブロック	分譲開始	池多、北押川	226,421	24

■ 目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
企業団地の入居率	第2期呉羽南部企業団地の入居率	第2期呉羽南部企業団地の入居率 100%を目指す。	—	100%

■ 施策の方向

① 企業立地の促進

雇用機会の拡大と地域経済の活性化を図るため、北陸新幹線の開業効果や都市の総合力など本市の強みを前面に出しながら、医薬品・医薬品関連産業などの製造業や3大都市圏へのアクセス性を生かした物流業等の誘致に努めるとともに、進出企業への立地支援の強化に取り組みます。

また、既存企業が引き続き地元に着し続けるよう、アフターフォローの充実など、サービス支援体制の強化に努めます。

一方、民間による企業団地の開発支援に取り組むとともに、民間が有する遊休地及び空き工場・事務所の活用を図るなど、企業の投資意欲をそぐことのないよう、需要に見合う企業用地等の確保に努めます。

■ 市民に期待する役割

■ 総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度)実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
企業団地造成事業	企業団地の造成	企業立地の促進を図るため、企業団地の造成及び維持管理の検討 企業誘致活動の実施
企業立地奨励事業(再掲Ⅲ-1-(1))	企業による設備投資等に対する支援の実施	事業の継続実施

■ 関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基礎をつくろう
11	住み続けられるまちづくりを
12	つくる責任つかう責任

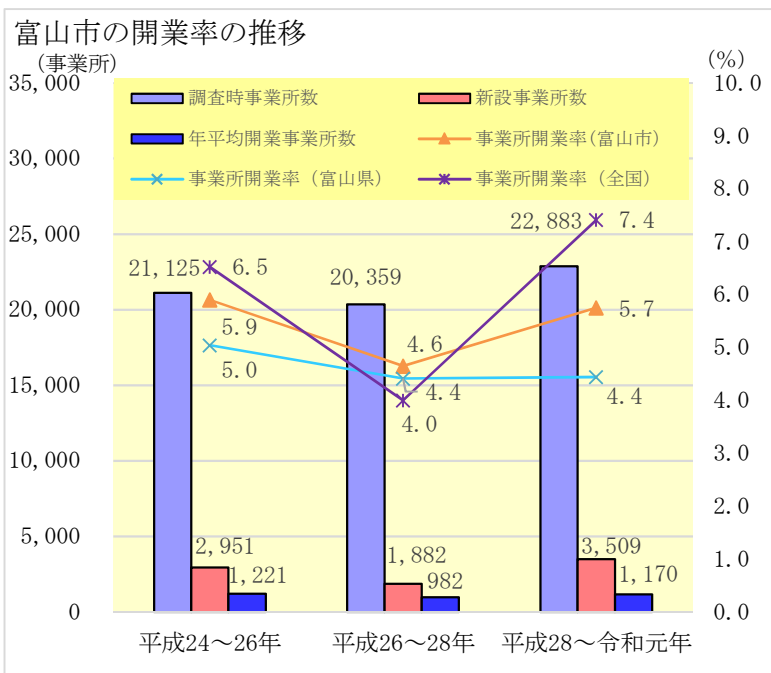
まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	1.新たな価値を創出する産業づくり
施 策	(3) 新産業・新事業の創出

■現状と課題

本市は、医薬品や医薬品関連産業、一般機械、電子部品などの製造業を中心とした産業集積を背景に高い技術力が蓄積されるとともに人材が豊富であり、さらには、大学や産業支援機関が集積し、民間事業者との連携により独自の研究開発が進み、研究成果のビジネス化が期待されるなど、産学官連携による新産業の育成や新事業への進出に適した基盤を有しています。

このような中、新産業支援センターを拠点として、産学官連携により大学等の優れた研究成果の事業化や民間事業者と大学等との共同事業を支援するなど、創業者やベンチャー企業などの育成に取り組んだ結果、商品化を前提とした研究開発を行い、当施設をステップにして成長を遂げた事業者もあり、一定の成果が出ています。

一方、限られた経営資源の中、新しい技術の導入や新分野への進出に踏み切れないなどの状況も見受けられることから、今後の脱炭素社会やデジタル社会の実現に向けた市場競争力を確保できる新産業の育成のため、新たな研究開発や事業展開に挑む企業への支援など、大学や産業支援機関等との連携を図りながら、新しい価値を生み出す事業の創出に向けた取組が重要となっています。



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
創業支援施設卒業企業数	創業者支援施設3箇所の卒業企業数 (施設の退去時点において事業を継続する者)	入居企業への支援を強化することにより、独立開業数の増加を目指す。	5社 (平成28年度～令和2年度平均)	6社

とやまシティラボを起点としたプロジェクト数	「とやまシティラボ推進事業」で共創により提案された地域課題解決のうち、実際に社会実装に向けて始動したプロジェクト数	共創により提案された地域課題解決は業種や企業の壁を超えたイノベティブなビジネスアイデアであり、これらを社会実装に向けて実際にプロジェクトとして始動させることは新産業・新事業の創出に直結する。	1件 (令和2年度)	10件 (令和4年度～令和8年度累計)
-----------------------	---	---	---------------	------------------------

■施策の方向

①新たな産業の育成

新産業の創出や商品などの研究開発を目的としたレンタルラボなどを備えた新産業支援センターにおいて、大学や産業支援機関などの関係機関と連携しながら、製品開発等の共同研究や技術相談体制を充実させ、医薬バイオ・ナノテク・IT・環境など成長分野の研究開発型ベンチャーの育成に努めます。

このセンターを拠点として、四方チャレンジ・ミニ企業団地やとやまインキュベータ・オフィスと連携を図りながら、高度なものづくりや新産業・新事業、創業者の育成に努めます。

また、融資制度や公的支援の充実を図るとともに、技術や製品の販路開拓についても支援します。

さらに、「富山ガラス」の認知度、ブランド力を高めるために開発した富山ガラスのオリジナル色「富山曼茶羅彩」や、大手百貨店との連携により開発した新たなブランド〈富山アイコンック〉の普及拡大を図るとともに、ガラスと建築物、構造物などの異業種との融合を促進することで、ガラスの用途を拡大し、ガラスの持つ可能性を広げることで、富山の特色ある産業としての基盤強化に取り組みます。

②多様な主体による共創の推進

市が富山駅前に整備した未来共創拠点施設「Sketch Lab (スケッチラボ)」における産学官民の交流の機会や場を提供することなどにより、オープンイノベーションを促進し、地域課題の解決や新たな価値の創造、さらには新産業・新事業の創出につながるよう取り組みます。

■市民に期待する役割

- * 知識や技能等を生かした新たな事業への取組。
- * 地域・コミュニティ単位での実証・試行の場の提供。
- * 富山ガラスの日常生活での使用拡大。
- * 贈答品などとしての富山ガラスの購入。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
ベンチャー企業等支援事業	創業支援施設3箇所の管理及び入居者への支援の実施 ベンチャー企業の新商品、新技術の見本市への出展、PR費用に対する支援の実施	事業の継続実施
ガラスの街づくり事業 (再掲Ⅲ-4-(2))	富山ガラス工房事業(ブランド化、作家育成定着支援) ガラス美術館の運営(作品収集保存、調査研究、展覧会開催、教育普及、広報活動、富山ガラス大賞展の開催等)	事業の継続実施

とやまシティラボ 推進事業	共創拠点施設「スケッチラボ (Sketch Lab)」の 整備 スケッチラボの運営支援 未来共創会議の開催	スケッチラボの運営支援 未来共創会議の開催
------------------	--	--------------------------

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
1 1	住み続けられるまちづくりを
1 2	つくる責任つかう責任
1 7	パートナーシップで目標を達成しよう

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	1.新たな価値を創出する産業づくり
施 策	(4) 強い農林水産業の振興

■現状と課題

本市は、中心市街地だけでなく、公共交通の駅やバス停の徒歩圏に居住を推進するとともに、日常生活に必要な都市機能を集積する「お団子と串」の都市構造を目指しています。

一方、田園地帯が広がる郊外や中山間地域については、富山湾の恵みや豊かな自然環境など、それぞれの地域特性や地域資源を生かしたまちづくりを目指しており、その実現のためには、農林水産業の振興が重要な役割を果たすものと考えています。

本市の農業は、基幹作物である主食用米の需要減少や従事者の高齢化、担い手不足に直面しており、兼業率も高いことから、農業経営の大規模化を進めるとともに、スマート農業の導入、プロモーション活動、高収益作物への転換及び付加価値の高い有機栽培など、農業経営の多角化を通じて収益力の高い農業を実現し、国内外での競争力を高める必要があります。

さらには、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ農林水産物の消費喚起を図るとともに、地域経済を回復するため、引き続き生産者を支援することが重要となっています。

近年、安心・安全かつ新鮮な農産物を求める消費者の声が高まっていることから、「地産地消」を推進する体制を強化する必要があります。

近年は、健康意識の高まりから、エゴマ等の健康作物の需要が高まっており、本市においても「薬都とやま」の強みを生かし、生産の拡大が求められます。

水産業では、担い手不足の解消や、安定した漁獲量を確保するため、スマート水産業を導入し、省力化や効率化を図る必要があります。

また、主要魚種のホタルイカ、シロエビは、漁業関係者によるブランド化などの努力が魚価に反映されつつあり、引き続きバランスの取れた持続可能な取組が求められます。

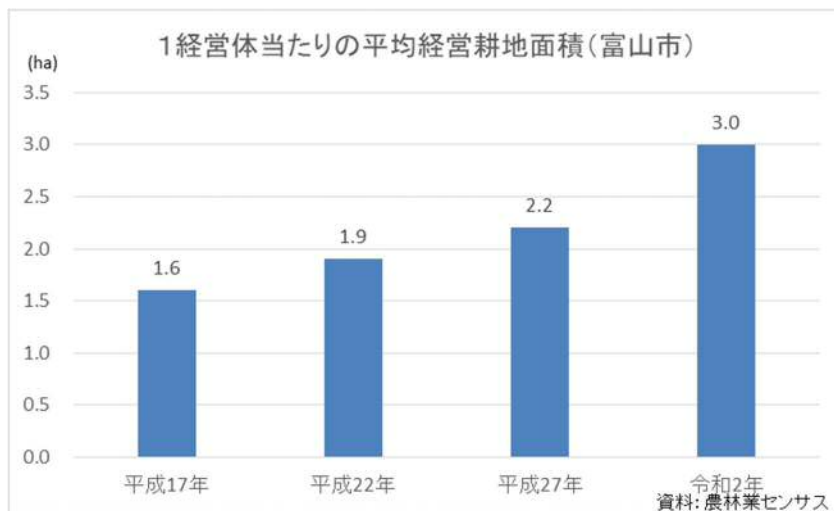
林業では、山村地域の過疎化・高齢化の進行による後継者不足や長期的な木材価格の低迷などにより経営が悪化しており、造林や素材生産の低コスト化、放置が進む人工林等の計画的な間伐と有効活用、市内産材の利用などを総合的に推進する必要があります。

さらに、近年、中山間地域ではイノシシ、平野部ではカラスなどによる農作物被害が急増しており、その対策としてパトロールや捕獲体制の強化、被害防止対策の充実に加え、イノシシや野鳥等が媒介する豚熱や鳥インフルエンザ等の家畜伝染病を予防するとともに、発生時の迅速な対応、風評被害の拡大防止等の対応が求められています。





※2020 農林業センサスから専業・兼業の区分が削除されたため、総農家数のみ表示





(注) 令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、魚価下落し漁獲高が減少した。

有害鳥獣による農作物被害額の推移

(万円)

鳥獣名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
カラス	4,980	2,825	3,715	4,814	4,964	1,610	791	1,028	1,201
ムクドリ	0	0	280	531	551	166	87	114	431
ニホンザル	205	196	71	107	65	31	0	0	8
イノシシ	427	703	747	1,344	1,295	1,867	807	1,295	313
その他	132	42	69	25	36	22	0	0	0
計	5,744	3,766	4,882	6,821	6,911	3,696	1,685	2,437	1,953

■ 目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
新規就農者数	本市で新たに農業に取り組む新規就農者数	農相談や研修会により、新規就農者の確保に努め、年10名の育成を目指す。	48名 (令和2年度)	108名
農福連携参入経営体数	本市で、新たに農福連携に取り組む農業者や社会福祉法人等の経営体数	本市で新規に、農福連携に取り組み、障害者の働く場の確保や社会参画の実現等が実施する農業者や社会福祉法人等を、年1経営体の育成を目指す。	15経営体 (令和2年度)	21経営体
1経営体当たりの平均経営耕地面積	農林業センサスにおける1農業経営体当たりの平均経営耕地面積	1経営体当たりの経営耕地面積を増やすことで、農地の集積・集約化を推進すると	3.00ha (令和2年度)	3.54ha

		ともに、農業者の経営安定化を図るため、年0.09haの面積増加を目指す。		
認定農業者等の担い手が占める経営面積比率	市内の水田面積に占める認定農業者等担い手の経営面積の割合	富山市担い手育成総合支援協議会事業計画及び富山市農業再生協議会水田農業ビジョンの育成目標に基づき、割合の増加を目指す。	54.2% (令和元年度)	70%
スマート農林水産業導入経営体	スマート農林水産業を導入する経営体	スマート農林水産業を導入する経営体の2件/年ずつの増加を目指す。	0件 (令和2年度)	12件
農業生産関連事業年間販売金額	農林水産省「6次産業化総合調査報告」における「農業生産関連事業」年間販売額	年3%程度の増加を目指す。	2,613百万円 (令和2年度推計値)	3,120百万円
健康作物の栽培面積	健康作物の栽培面積	エゴマ等の生産拡大を推進し、年14%程度の増加を目指す。	健康作物の栽培面積 21.3ha (令和2年度)	健康作物の栽培面積 36.6ha
地域材生産量	市内産材から住宅建材やチップ・ペレット等が生産された量	地域材の活用促進に努め、生産量の増加を目指す。	14,000 m ³ (令和2年度)	19,000 m ³
有害鳥獣による農作物被害額	有害鳥獣による農作物被害額	被害防止対策を推進し、被害額の低減を目指す。	1,953万円 (令和2年度)	1,800万円

■施策の方向

①担い手の育成・確保

農業者の高齢化や後継者不足が深刻化する中、農業を持続的に発展させるため、やる気のある若い就農者を確保するとともに、集落営農組織等の法人化により、経営基盤の安定した経営体の育成を推進します。

また、企業等の参入を促進するとともに、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに障害者の生きがいを創出し、社会参画を促す農福連携を推進します。

②農業生産基盤整備と農地集積

農業経営の低コスト化、省力化、経営基盤の強化を図るため、農業生産基盤整備による農地の大区画化・汎用化等を推進するとともに、意欲ある担い手を中心に、農地集積や集約化を進め、経営面積の拡大と作業の効率化を図ります。

農業水利施設やため池等の機能を安定的に発揮させるため、適切な維持管理・更新を支援し、農業生産基盤の維持を図ります。

農業用水路への転落事故を未然に防ぐため、住民による危険個所の点検や事故防止のための意識啓発を促すとともに、用水管理者が行う安全施設の整備への支援を行うなど、安全対策の取組を促進します。

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の共同活動に係る支援に努めます。

③スマート農林水産業の推進

AI、ICT及びロボット技術等先端テクノロジーを活用するスマート農林水産業を推進し、従来の経験に基づく農林水産業からデータに基づく農林水産業へ転換することで、省力化や効率化を図り、

収益力の高い農林水産業を実現し、産業としての魅力を高めることで、若者など新たな担い手を確保するとともに、農林水産業の活性化に努めます。

④農林水産物プロモーションの推進

国内市場における農林水産物の需要の縮小や、国外における日本食・食文化に対する関心の高まりに対応するため、国内外への積極的なプロモーション活動によって、販路を拡大するとともに、市内産農林水産物の知名度の向上を図り、農林水産業を振興します。

⑤農林水産物の高付加価値化

農家レストランや観光農園、地場もん屋等の直売所において、地場の農林水産物やその加工品の販売を支援すること、また各地域の特産品をふるさと納税の返礼品とすることなどにより、地産地消を促進するとともに、6次産業化に取り組む農業者等を支援することで、農林水産物の高付加価値化を図ります。

また、中山間地域において、地域おこし協力隊などを積極的に活用し、農泊の推進や特産品の開発等による農村振興を図ります。

⑥健康作物の栽培振興

エゴマ等の健康作物の栽培に対し支援を行い栽培面積の増加を目指します。

また、エゴマについては収量向上に向けた実証調査を行い、本市における栽培技術の確立を目指すとともに、栽培したエゴマの葉や油の成分研究を行うほか、海外と連携した新たなオイルの開発などに取り組むことにより、エゴマの高付加価値化と国内外での普及展開を目指します。

⑦持続可能な水産業の展開

シロエビやホタルイカ等ブランド魚種の適正な漁獲や、アユ、サクラマス等の稚魚放流により持続的な資源管理に努めるとともに、ブランドイメージの向上や国内外での競争力を強化するための取組を支援します。

また、漁港施設の長寿命化に取り組むとともに、漁労作業の省力化のための機械の導入や、クルマエビやヒラメ等の栽培漁業を支援し、持続性のある漁業の振興に努めます。

⑧持続可能な林業経営の展開と適切な森林施業の基盤整備

高性能林業機械などの導入支援等により、林業経営の安定化を図るとともに、市内産材の住宅建材への需要の拡大や間伐材の木質ペレット等への活用を促すなど、地域材の消費拡大に努めます。

また、公共建築物については可能な限り木造化や内装などの木質化を促進します。

⑨有害鳥獣による農作物被害の低減

富山市鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動の強化及びイノシシ防除用電気柵やカラス防除用ワイヤー等の防護柵の設置による被害防除活動の推進を図るとともに、イノシシ等を対象とした捕獲報奨金制度や新規狩猟免許取得者への支援等により、有害鳥獣対策の強化・促進を図り、農作物被害の低減に努めます。

また、周辺他市町村と緊密に連携した鳥獣被害防止対策にも取り組みます。

■市民に期待する役割

- * 地域の担い手としての積極的な活動。
- * 耕作できない農地の、地域の担い手への集約。
- * スマート農林水産業の導入。
- * 効率的な栽培方法の確立に取り組む。
- * 生産者が国内外の商談会等に積極的に出展し、販路拡大に取り組む。

- * 農家レストランや観光農園による地域活性化。
- * 生産者による安心・安全な地場産品を利用した加工品の出荷。
- * 6次産業化により生産された加工品などの積極的な購入。
- * 生産者による安心・安全な地場産品の出荷。
- * 消費者による地場産品の積極的な購入。
- * 障害者等の農業参加への理解。
- * 農業者の福祉に対する理解度向上。
- * 地域材を使用することの重要性の理解及び燃料としての利用や建築資材としての活用。
- * 有害鳥獣における捕獲対策や被害対策への協力。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
担い手総合支援事業(組織化・法人化支援)	新規就農者の育成・確保、集落営農組織や農業法人の設立	事業の継続実施
担い手総合支援事業(農地集積・集約化支援)	機構集積協力金や「目指せ担い手」農地集積促進事業による農地集積	事業の継続実施
若い農業者育成活動促進事業	—	若い農業者の農業経営の早期確立を図るための就農前や就農開始直後の農業経営支援
企業等農業参入対策事業(農福連携)	農福連携の取組を推進	農福連携実施者に対する支援やマッチングの実施
集落営農等促進対策事業	集落営農組織など、担い手の育成・強化を図るための農業用機械等の導入支援	事業の継続実施
スマート農林水産業事業	スマート農業等の導入と効果検証	スマート農業等の導入と効果検証 スマート農業の他作物・他地域への普及展開
農林水産物プロモーション推進事業	市内産農林水産物の国内外におけるプロモーションの推進	事業の継続実施
6次産業化支援事業	農業者による新たな商品開発と普及啓発	事業の継続実施
地場もん屋運営事業	地場もん屋の運営	事業の継続実施
薬用植物振興対策事業	新規作付け・継続作付けに対する支援、農業用機械の導入支援	事業の継続実施 エゴマの栽培技術を確立するための実証調査の実施
地域材活用促進事業	地域材使用住宅への支援	事業の継続実施
代替エネルギー用材等活用促進事業(再掲Ⅱ-4-(2))	代替エネルギー用材搬出促進補助	事業の継続実施
鳥獣対策事業	鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動、イノシン等捕獲報奨金、イノシン用電気柵やカラス用ワイヤー等の防護柵設置による防除対策支援等	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGSの目標

番号	目標名
1	貧困をなくそう
2	飢餓をゼロに

4	質の高い教育をみんなに
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
1 1	住み続けられるまちづくりを
1 2	つくる責任 つかう責任
1 3	気候変動に具体的な対策を
1 4	海の豊かさを守ろう
1 5	陸の豊かさも守ろう
1 7	パートナーシップで目標を達成しよう

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	1.新たな価値を創出する産業づくり
施 策	(5) 活力を創出する人材育成

■現状と課題

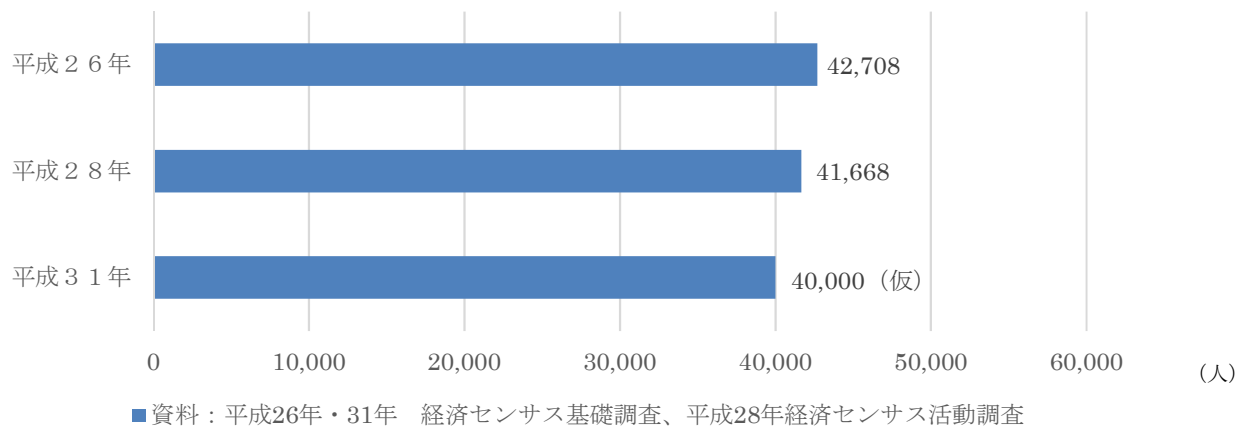
少子超高齢社会の進行により生産年齢人口が減少する中、付加価値の高い産業の担い手となる高度人材・専門人材のほか、地域の課題に取り組む社会的起業家やコミュニティの担い手など地域を支える人材の確保・育成と高齢者や女性など多様な人材の活躍が求められます。

商工業では、新規創業者及び新事業の展開に取り組む事業者を支援する必要があります。

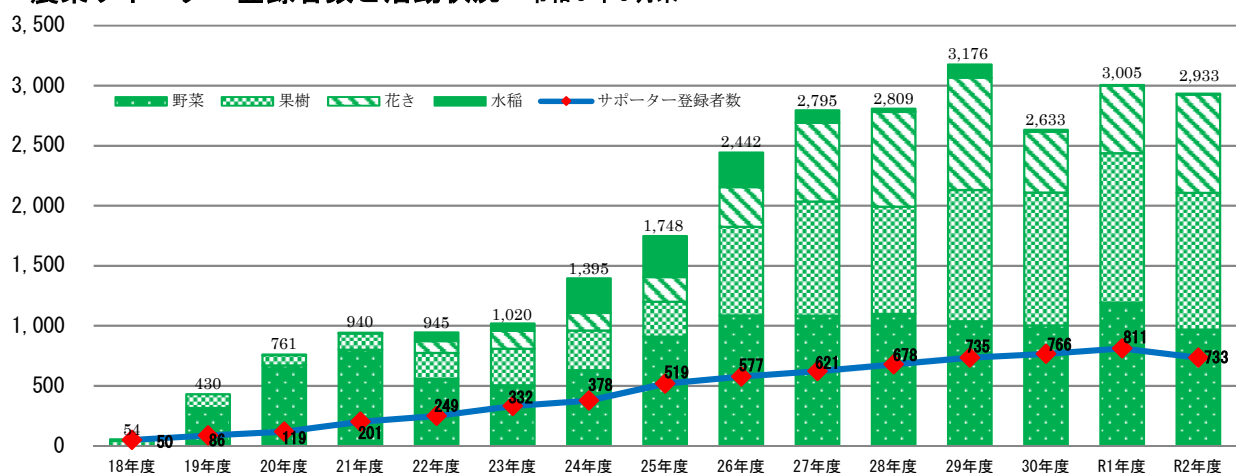
農業では、従事者の高齢化と後継者不足が進行する中、「営農サポートセンター」での、新たな担い手の育成・支援のさらなる充実が求められます。

また、IoTやAIといったICTの活用を推進するとともに、こうした最先端技術によって得られたデータを利活用することのできる人材を育成し、社会の様々な課題の克服につなげていくことが求められています。

富山市商業（小売業・卸売業）の従業員数の推移



農業サポーター登録者数と活動状況 令和3年3月末



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
農業サポーター登録者数	農業サポートの従事を希望する研修受講者の延べ人数	人材育成の結果として活躍できる農業サポーターの人数900人を目指す。	733人 (令和2年度)	900人

事業所の新規開業率 (再掲Ⅲ-1-(1))	経済センサスにおける新規開業率(全産業)	新規開設の事業所数増により新規開業率の増加を目指す。	5.7% (令和元年)	7.0%
--------------------------	----------------------	----------------------------	----------------	------

■施策の方向

①各産業を支える人材育成

厳しい経営環境を乗り越えるためのリーダーを育成するため、多様な企業などの連携により、産業を支える人材ネットワークの構築や経営者が世代間や異業種間で交流する機会の創出に努めます。

また、趣味や生きがいとして、農業に携わりたい方に農業研修を行い、農作業をサポートできる人材を育成し、労働力不足に悩む農業者に紹介することで農業技術などの継承を図る楽農学園事業を推進します。

②起業者への支援

四方チャレンジ・ミニ企業団地やとやまインキュベータ・オフィスでは、ものづくりやデザイン業などのオフィス系事業の起業者を育成し、新産業支援センターでは成長分野の研究開発型ベンチャーの育成に努めます。

景気動向や起業者のニーズを的確に捉えながら、創業や新たな分野へ事業展開を図る事業者の資金面での支援を行うほか、創業支援等事業計画に基づき、経済団体や金融機関などと連携したセミナー等を開催し、身近な場所で相談できる地域一体型の体制を整備し、創業支援に努めます。

さらに、創業後も、(公財)富山県新世紀産業機構や商工会議所などの関係機関と連携を図りながら事業経営の支援に努めます。

③デジタル人材の育成支援

今後の社会において、ますます必要とされるデータサイエンティストなどのデジタル人材の育成について、産官学が連携して取り組みます。

■市民に期待する役割

* 知識や経験を生かした商工業の担い手としての積極的な活動。

* 農業サポーター活動への参加による農業支援。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
楽農学園事業	とやま楽農学園での研修講座、実務研修、農業サポーターの活動支援	事業の継続実施
とやま経営実践塾	実践コース、座学コースの実施	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
11	住み続けられるまちづくりを
12	つくる責任つかう責任

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	2.観光・交流のまちづくり
施 策	(1) 広域・滞在型観光の推進

■現状と課題

北陸新幹線の開業や羽田空港での国際線乗り継ぎの改善などにより、国内外から本市へのアクセスが向上し、観光のみならず多様な目的を持つ人が交流しやすい環境の整備が進んでいます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、インバウンド需要をはじめ、観光客等の入込が大きく落ち込み、観光産業などはかつてないほどの厳しい状況となっています。

こうした中、本市が広域観光のためのゲートウェイとして、また、滞在型観光の拠点として選ばれるためには、周辺観光地との広域的な連携を強化しながら、公共交通の利便性といった滞在地として良さをPRするとともに、魅力的な滞在型観光プログラムを充実させるなどの取組が必要となっています。

また、本市が魅力的な滞在拠点となることにより、将来的には、週末や季節に応じて滞在する二地域居住（マルチハビテーション）や本市への移住にもつながる可能性があるほか、多くの観光客がリピーターや「富山ファン」となることで関係人口の増加も期待できます。



立山黒部観光調べ

■ 目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
富山県観光客入込数調査による宿泊者数	市内におけるホテル・旅館の延べ宿泊者数	基準数値の 5%増を目指す。	1,840,926 人 (令和元年)	1,933,000 人

■ 施策の方向

① 富山を拠点とした広域観光の推進

本市では、富山駅を起点として、複数の鉄道路線と環状線や南北に延びる路面電車路線を有するなど、利便性の高い地域交通網を形成しています。また、市内中心部や高速道路のインターチェンジに近い恵まれた立地条件にあるとともに、羽田便のほか台北便などの国際定期便が就航する富山空港を有しています。これらの優位性を生かし、本市を拠点とする広域観光のゲートウェイとしての役割を担っていきます。

また、観光交流協定都市や北陸新幹線沿線都市などとの連携を深め、広域観光を一層推進します。

② 富山の魅力を活用した滞在型観光の推進

城址公園内での甲冑体験や乗馬体験などの魅力的なプログラムを提供するとともに、宿泊者へ路面電車割引利用券を配布するなど、本市のイメージアップを図ることで滞在型観光を推進し、滞在時間の延長を目指します。

また、本市を拠点とする旅行の商品開発を支援するとともに、旅行業者等と連携し、地域の人の交流も含めた、富山の特色を生かした質の高い滞在型観光を研究・企画することにより、交流人口や関係人口の拡大を図ります。

③ インバウンド(外国人観光客)の誘致促進

アフターコロナ社会を見据えて、富山への来訪が期待される台湾、香港、シンガポールなどのアジア諸国を中心に誘客活動を行うとともに、外国人宿泊者への路面電車無料券の配布やAIを活用した観光案内用チャットボットの運用などにより、外国人観光客が快適に旅行できる環境づくりの推進に努めます。

■ 市民に期待する役割

- * 観光交流協定都市等についての理解。
- * 富山の魅力についての理解。
- * 観光客などに対するおもてなしの心の醸成。

■ 総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度)実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
地域交通利用促進事業	宿泊客の増加を図るため、本市に宿泊する観光客に対し、路面電車の無料券、半額券の配布を実施	事業の継続実施
富山市まちなか観光案内所運営事業(再掲Ⅲ-2-(2))	城址公園内での甲冑体験や乗馬体験事業等への支援 富山市まちなか観光案内所の運営	事業の継続実施

■ 関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
11	住み続けられるまちづくりを

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	2.観光・交流のまちづくり
施 策	(2) 観光資源の創出・発信と受入体制の整備

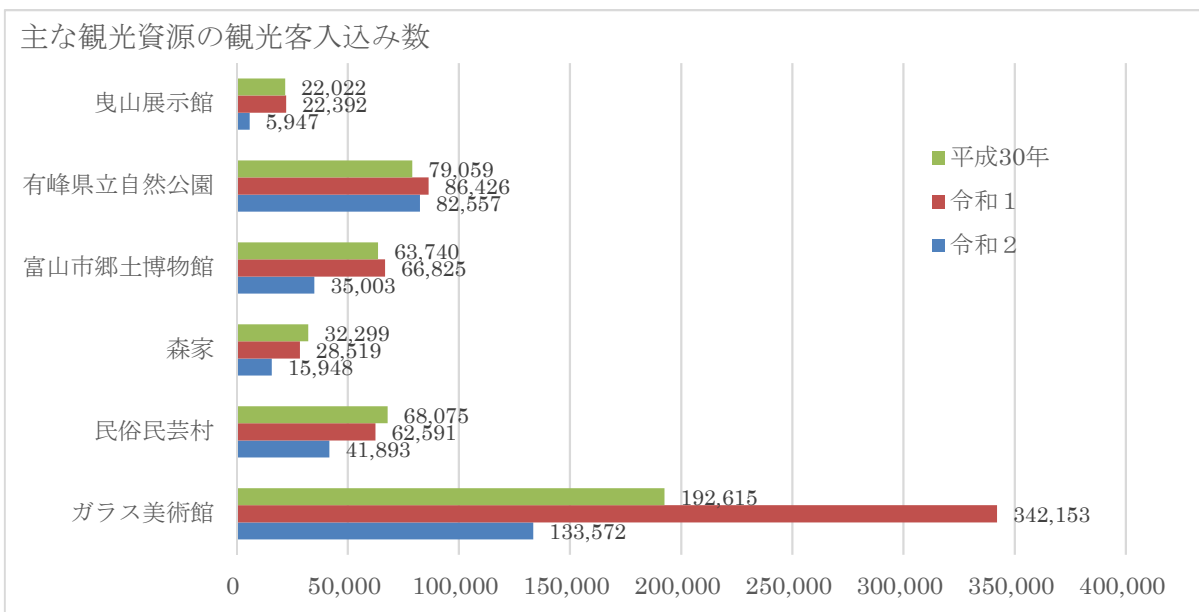
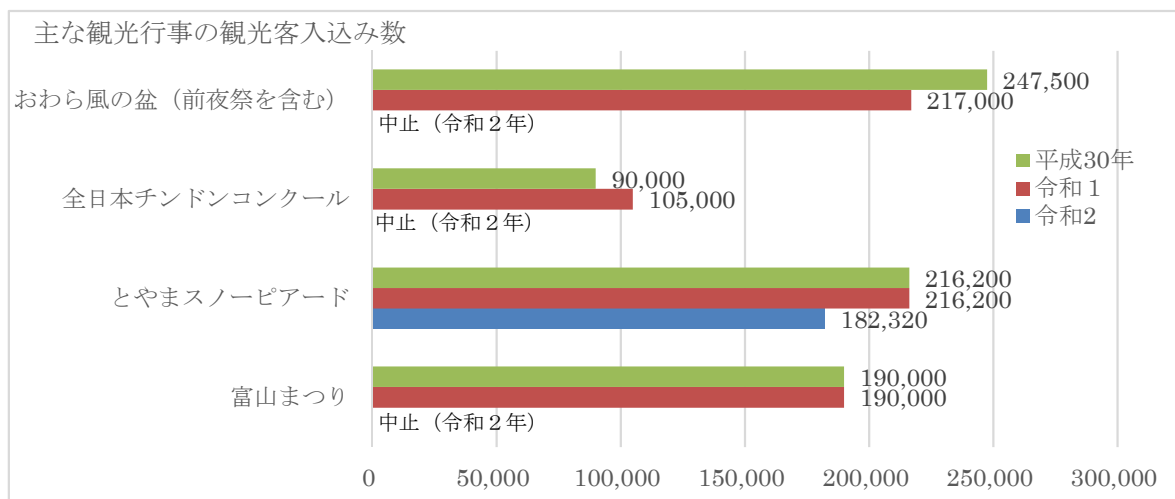
■現状と課題

本市には、豊かな自然、地域で育まれた文化、地域の歴史を物語る施設、美しい都市空間などに加え、「ものづくりのまち」として医薬品製造をはじめとした産業観光資源が点在しています。

新型コロナウイルス感染症の流行により、観光旅行等が制約される中、アフターコロナ社会を見据え、新たな観光資源の掘り起こしや既存の観光資源のブラッシュアップにより、外国人をはじめ、登山やスポーツをする人、高齢者や障害者など多様な観光需要に対する受入体制を整備し、富山型観光産業を育成することが求められています。

また、「富山のくすり」の強みを生かした「富山やくぜん」や「薬都富山のめぐみ 食やくシリーズ（富山のお土産）」の商品価値の向上などの取組により、さらなるブランド力の向上が求められます。

これらに加え、「ます寿し」や水産加工品、越中八尾和紙、富山木象嵌、とやま土人形などの豊富な特産品を、北陸新幹線沿線都市と連携し、首都圏等へPRするとともに、購買力のある国外市場に対する取組も促進する必要があります。



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
観光サポーター研修受講者数	観光サポーター研修の累計受講者数（延べ人数）	基準数値の維持を目指す。	520人 （平成27年～令和元年）	520人 （令和4年～令和8年）
「富山やくぜん」のSNSフォロワー数	S N S（Facebook、Instagram等）の合計フォロワー数	「富山やくぜん」ブランドの認知度を高め普及を図るため、SNSの投稿内容や頻度、手法を見直し、5年間の累計で新規に5,000人のフォロワーの増加を目指す。	1,416人 （令和2年度）	6,400人
「食やくシリーズ」の販売数	年間販売数	食やくシリーズが富山のお土産ブランドとして自立、継続できるよう、年間35,000個の販売数を目指す。令和2年度の基準数値はコロナの影響を著しく受けているため、過去の推移を参考とした。	10,126個 （令和2年度）	35,000個

■施策の方向

①地域資源の活用による新たな観光資源の創出

豊かな自然や地域で育まれた文化など、魅力的な観光資源の情報発信に努めるとともに、本市の基幹産業である医薬品や工業製品の製造現場など、さまざまな産業観光資源の魅力を発信していきます。

また、ます寿しづくりやガラス制作などの体験型観光を推進するとともに、**新たにSDGsなどをテーマとした**観光資源の掘り起こしやブラッシュアップに取り組みます。

さらに、富山フィルムコミッションの取組として、映画、テレビドラマ、CMなどの様々なジャンルのロケーション撮影を誘致・支援し、観光客等の増加につなげます。

②多様化する観光客への観光情報発信と受入体制の充実

より多くの観光客などに、本市の魅力を伝えるために、積極的に情報発信を行うとともに、AIチャットボットを運用し多様なニーズに対応した情報提供に努めます。

また、観光客の満足度を向上させ、リピーターの増加につながるよう、**広く富山の魅力に対する理解を深めるとともに**、観光客に対するおもてなしの機運の醸成に努めます。

③富山ブランドの確立・推進

地域ブランドである「富山のくすり」をはじめ富山の物産の特色・魅力を効果的に国内外に発信することに努めるとともに、**健康とも親和性の高い「薬都とやま」**のブランドイメージを強化、**活用**し、市民の誇りを育み、賑わいと回遊性を生み出す拠点となる施設の整備について検討します。

また、「富山やくぜん」の普及を図るとともに、商品価値を高めるため認定更新制度を実施します。

「薬都富山のめぐみ 食やくシリーズ」の展開では、事業者が取り組む販路拡大や商品PRの支援に努めます。

■市民に期待する役割

*観光ボランティア活動等への参加及び観光客に対するおもてなしの心をもった案内。

*障害者や高齢者など、移動や宿泊において支援を必要とする方々の受入についての理解。

*市内外に存在し、散逸が懸念されているくすりに関する資料の調査・研究への協力。

*薬都とやまの歴史と現在、「富山やくぜん」や「食やくシリーズ」に対する理解及びその魅力の発信。

*富山の豊富な特産品のPR及び利用。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
フィルムコミッション事業	国内外の映画やテレビドラマ、コマーシャル等のロケーションを誘致する富山フィルムコミッションの運営	事業の継続実施
観光サポーター研修事業	観光サポーター研修の実施 観光ボランティア研修・協議会運営	事業の継続実施
富山市まちなか観光案内所運営事業	城址公園内での甲冑体験や乗馬体験事業等への支援 富山市まちなか観光案内所の運営	事業の継続実施
外国人観光客まちあるき環境整備事業	観光案内用AIチャットボットの管理運営を実施	事業の継続実施
富山やくぜん普及推進事業	「富山やくぜん」研修会の開催 「富山やくぜん」PR冊子の作成 ホームページ、SNS等を利用したPR	事業の継続実施
商品力向上支援事業	新商品開発支援、商品PR・販売戦略支援、販路拡大支援	事業の継続実施
富山ブランド市開催事業	富山ブランド市(物産展)の開催	事業の継続実施
くすり関連施設整備事業	—	くすり関連施設整備及び運営等手法の検討、資料収集・調査、整備

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基礎をつくろう
11	住み続けられるまちづくりを
17	パートナーシップで目標を達成しよう

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	2.観光・交流のまちづくり
施 策	(3) 多様な交流の促進

■現状と課題

北陸新幹線の開業や羽田空港での国際線乗り継ぎの改善などにより、観光のみならず多様な目的を持つ人が交流しやすい環境の整備が進んでいます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、観光客等の入込が大きく落ち込み、厳しい状況となっています。

本市には、国際会議にも対応可能な富山国際会議場のほか、コンベンション会場としても利用できる富山市総合体育館や富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）等の大規模施設があり、富山大手町コンベンション（株）や（公財）富山コンベンションビューローと連携し、主催者への支援などを通じたコンベンションの誘致に努めることが求められています。

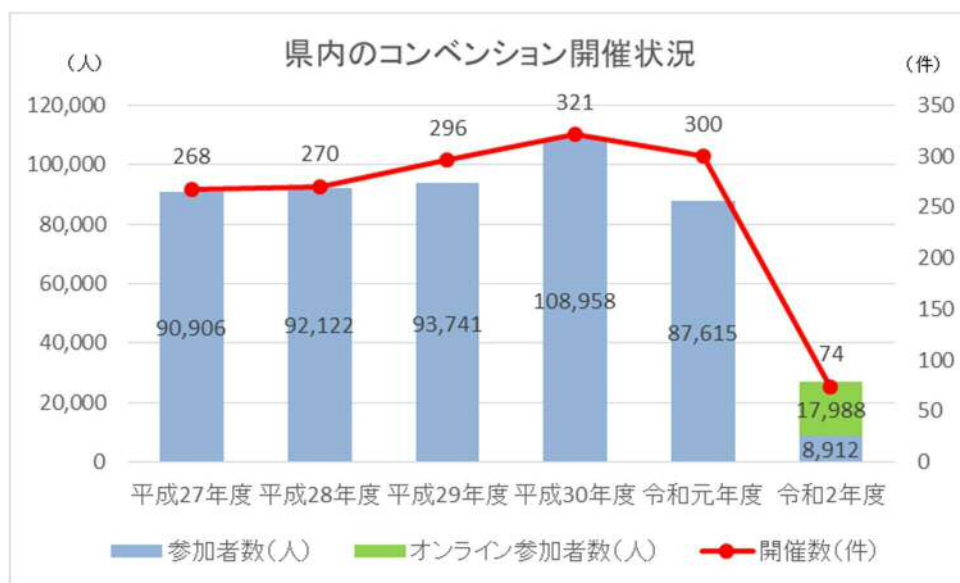
さらに、コンベンション参加者を本市のリピーターとするためには、会議にあわせ市内を観光するとともに、富山の食を堪能するなどのアフターコンベンションの充実が必要となります。

一方、国際交流としては、4つの姉妹・友好都市（モジ・ダス・クルーゼス市、ダーラム市、ダボ・リージョナル・カウンシル＝以上「姉妹都市」、秦皇島市＝「友好都市」）に加え、東南アジア諸国やOECD加盟の海外都市との間で、環境問題への対応など都市が直面する行政課題の解決に向けた国際協力・連携を行っています。

また、労働力不足の懸念から外国人労働力への期待が増す中で、本市では東南アジア諸国からの技能実習生などが増加しており、多様な文化や生活習慣、価値観を持つ外国人を、地域社会の一員として受け入れ、日本人と共に活躍できる多文化共生社会を目指していくことが重要となっています。

このため、富山市民国際交流協会が主体となり、各種交流イベントを行うとともに、外国人ワンストップ相談や日本語の学習支援などを実施しています。

こうした取組を通して、外国人の住民や観光客にとっても安心して過ごせるまちづくりを進めることにより、外国人等と市民との多様な交流機会の増加が見込まれるとともに、互いを認め合うことで新たな価値が創造され、本市の活力の向上につながることを期待されます。



公益財団法人富山コンベンションビューロー調べ

令和元年度コンベンション参加者の富山県内での1人平均消費額

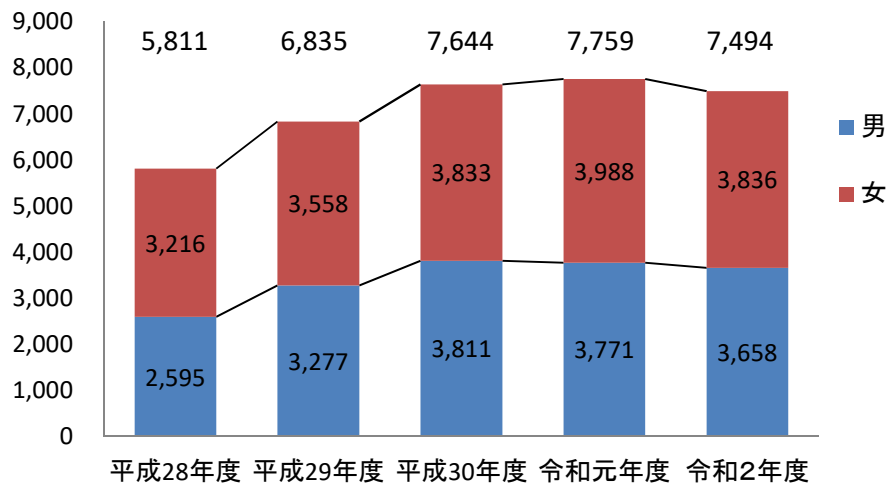
(単位:円)

項目	金額
宿泊費	21,375
食費	13,602
遊興・娯楽費	2,837
お土産費	12,346
県内交通費	7,560
コンベンション参加費・その他	10,872
合計	68,592

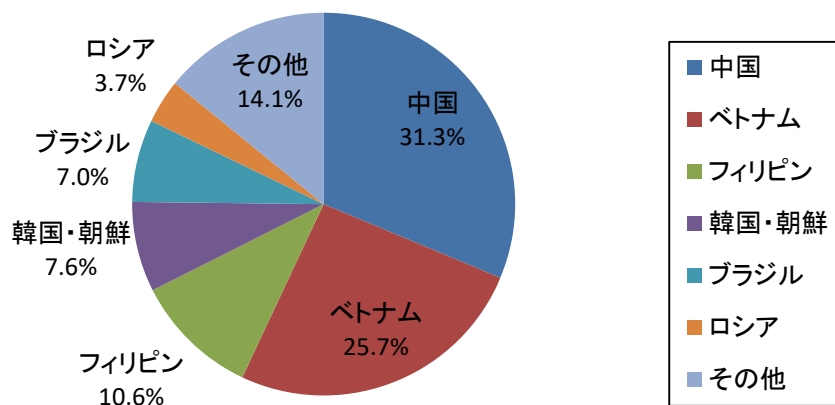
例年調査データを翌年
1月に公開するが令和
2年は未調査

「公益財団法人富山コンベンションビューロー調べ」

外国人住民数(各年12月末現在)



外国人住民の国別割合(令和2年12月末日現在)



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
コンベンション開催数及び参加者数	県外参加者が「100人以上で会期が2日以上」または「50人以上で会期が3日以上」のコンベンションの開催数及び参加者数	基準数値の維持を目指す。	開催件数78件 参加者数 45,498人 (令和元年度)	開催件数78件 参加者数 45,500人

■施策の方向

①コンベンション誘致の推進

アフターコロナ社会を見据え、コンベンション開催補助制度など各種支援制度をPRするとともに、富山大手町コンベンション(株)や(公財)富山コンベンションビューローとの連携強化などにより、コンベンションの誘致に努めます。

また、宿泊事業者とも連携しながら、本市への合宿やスポーツ大会の誘致に努めます。

②アフターコンベンションの充実

コンベンション等への参加者に富山を楽しんでいただくため、飲食情報や特産品、四季折々の旬の情報提供に努めるとともに、路面電車利用券の配布や観光タクシー料金の助成などにより、県内観光地の回遊性の向上を図り、アフターコンベンションの充実に努めます。

③さまざまな国際交流活動への支援

国際交流については、行政主体から、市民主体の国際交流活動への移行を促進し、富山市民国際交流協会など関係団体の取組を支援します。

④外国人が過ごしやすいまちづくり

外国人と住民が、互いを尊重し認め合いながら、地域の一員として共に暮らしていくため、**外国人を支援するボランティアを育成するなど**、多文化共生のまちづくりを推進します。

■市民に期待する役割

*コンベンションボランティアへの登録。

*国際交流・国際協力への取組。

*外国人住民に対するよりきめ細かな情報提供や活動支援。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
コンベンション開催支援事業	本市で実施されるコンベンション等に対し、開催を支援する	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
4	質の高い教育をみんなに
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新基盤をつくろう
10	人や国の不平等をなくそう
11	住み続けられるまちづくりを

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	3.いきいきと働けるまちづくり
施 策	(1) 多様な雇用機会の創出

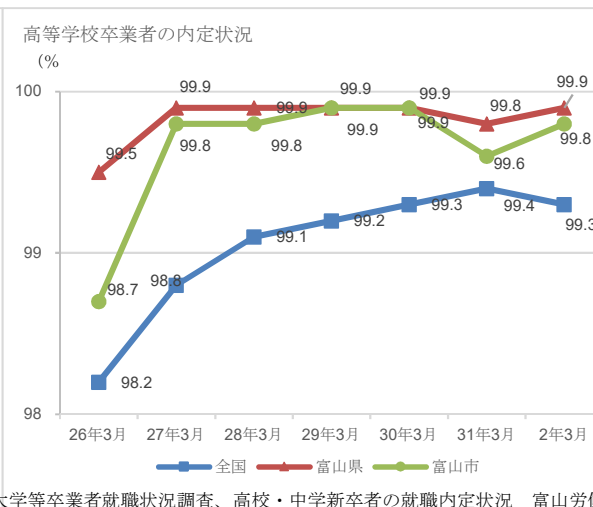
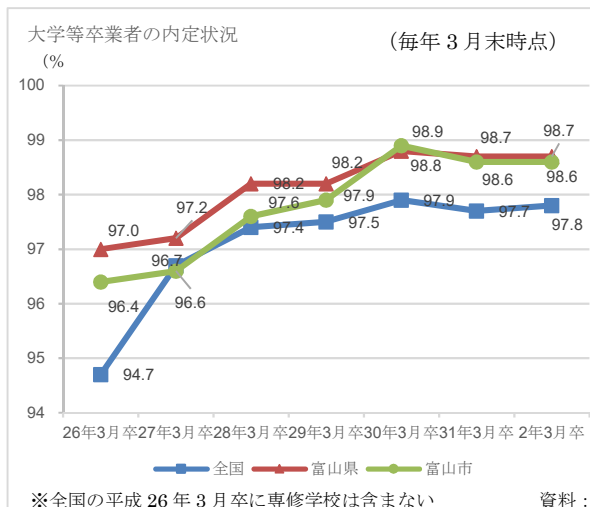
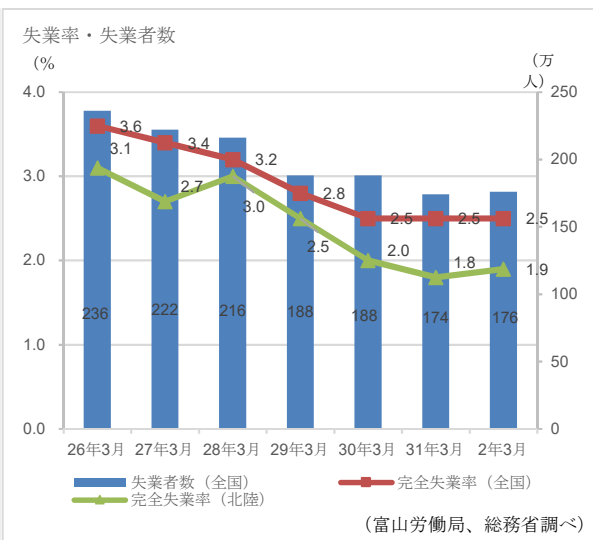
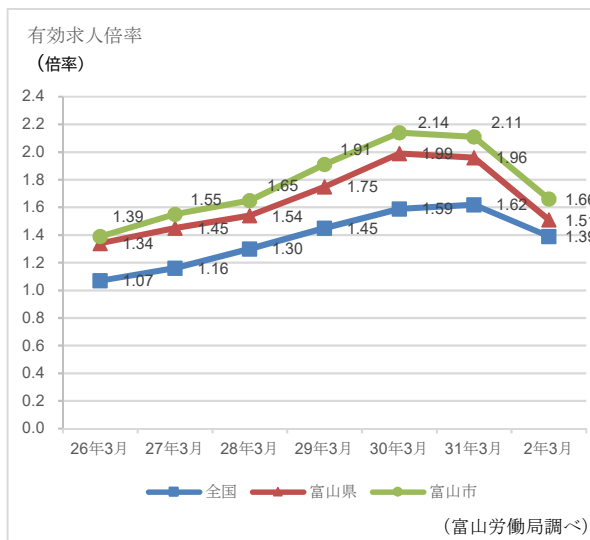
■現状と課題

少子超高齢社会の進行や地方から東京圏への人口の流出により生産年齢人口が減少し、労働力不足が危惧される状況が続いています。

このような中、若年者が本市で働くことに魅力を感じ、地域の担い手として誇りを持って市内企業に就職したり、起業できるよう支援することや、働く意欲のある高齢者、障害者、女性、ひとり親など多様な人材が活躍できる雇用環境の整備が求められます。

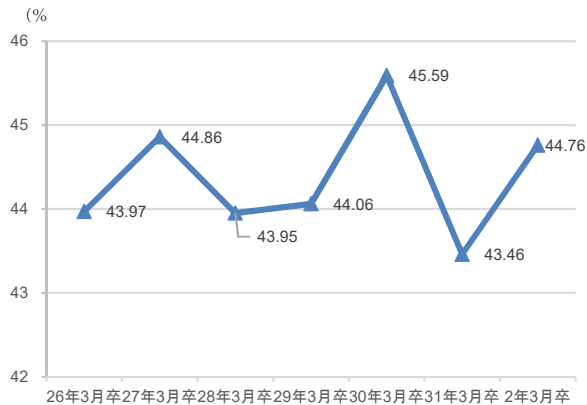
また、ICTを活用することにより、労働力不足を補うとともに、労働者が時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現が期待されています。

加えて、非正規雇用労働者については、雇用の不安定さや低賃金などが問題とされており、経済的自立を促すためにも安定かつ良質な雇用の確保を図る必要があります。



資料：大学等卒業者就職状況調査、高校・中学新卒者の就職内定状況 富山労働局

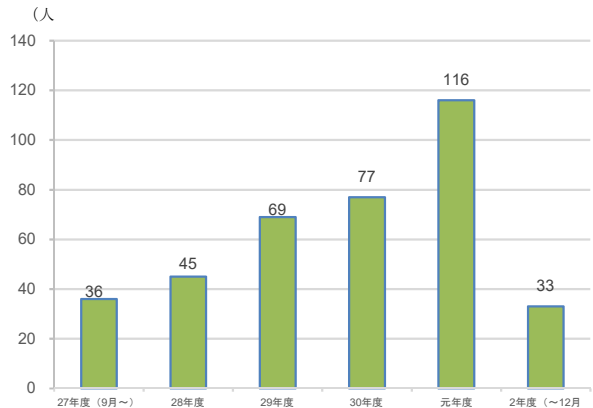
県内大学卒業生の県内就職率



(富山労働局調べ)

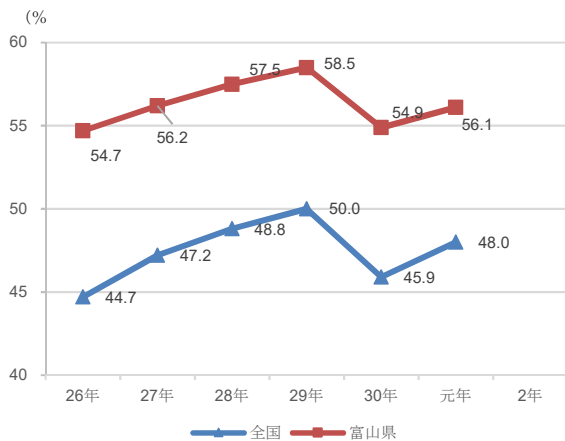
資料 富山県の高高等教育機関

富山市無料職業紹介所を通じて就職した人数

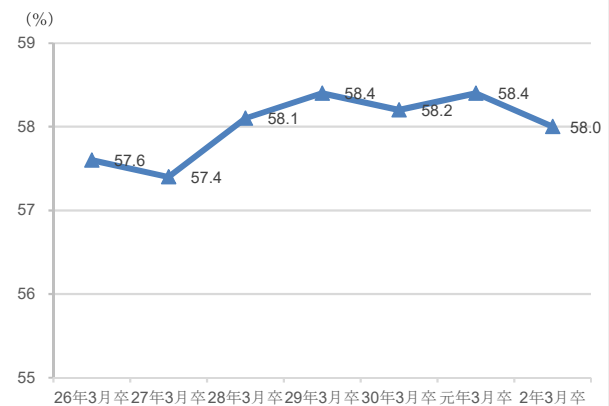


(県移住・U I J ターン促進課調べ)

障害者法定雇用率達成企業割合



県内高校出身の県外大学卒業生のUターン就職率



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
県内高校出身の県外大学生のUターン就職率	県内高校の卒業生で県外に進学した大学生のうち、Uターン就職した大学生の割合	県等と連携を図りながら、60%以上を目指す。	58.0% (令和元年度)	60%
県内大学卒業生の県内就職率	県内大学の卒業生で就職した者のうち、県内企業等に就職した割合	県等と連携を図りながら、50%以上を目指す。	44.76% (令和元年度)	50%
富山市無料職業紹介所を通じて就職した人数	無料職業紹介事業の実施により、就職した人数の累計件数	就労相談や職業紹介等を実施することにより、年間120件を目指す。	116件 (令和元年度)	累計600件
県内事業所での障害者雇用率達成割合	法定障害者雇用率2.3%を達成した一般の民間企業の割合	法定障害者雇用率達成割合について58.5%を目指す。	56.1% (令和元年度、法定雇用率2.2%)	58.5%

■施策の方向

①雇用機会の拡大と就労支援

大学生などを対象に本市や市内企業の魅力をプレゼンテーションする企業説明会等を開催し、若者の市内企業への就職による地元定着を図るとともに就職を契機としたU I J ターンを促進します。

また、市内企業の概要や採用情報等をホームページで紹介するなど、関係機関とも連携しながら、本市での就労支援に努めます。

また、障害者、ひとり親家庭の父母、高齢者等働く意欲のある全ての人々の就労機会の拡大を図るため、国・県など関係機関と連携し、雇用の場の拡大について企業に働きかけるとともに、雇用奨励金制度などにより、雇用の促進と安定に努めます。

さらに、「富山市福祉奨学基金」や「富山で働き・学ぶ生き方等応援奨学基金」などを活用した奨学金制度などにより、児童養護施設の入所者、生活保護世帯やひとり親世帯の子どもの将来の経済的自立を支援します。

求職者や就労支援を必要とする者に対しては、市庁舎内の富山市無料職業紹介所「JOB 活とやま」で、職業紹介や就労相談を行い、福祉部門とも連携を図りながらワンストップサービスによる円滑な就労支援に努めます。

さらに、ライフスタイルや価値観に応じた多様で柔軟な働き方を可能にするため、国・県等と連携しながら「働き方改革」の推進に努めます。

■市民に期待する役割

- * 若年者、女性、障害者、高齢者などに対する雇用の拡大。
- * 地域の担い手として、地元企業への就職。
- * 富山市無料職業紹介所「JOB 活とやま」などの活用による早期就労。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成 29 年度～令和 3 年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和 4 年度～令和 8 年度)
若年者就職支援事業	学生と市内企業との面談の場の提供、企業情報ホームページによる市内企業の情報発信	事業の継続実施
富山で働く人材応援奨学資金貸付事業	富山で働く人材応援奨学資金を貸付けることで修学支援を行うと共に、市内企業への就職を促す。	事業の継続実施
ひとり親家庭奨学資金貸付事業 (再掲 I-3-(1))	—	ひとり親家庭の子どもに対する奨学資金の貸付 新規貸付者数 16 名(予定)
無料職業紹介事業	求職者の就労機会の増加とワンストップサービスによる円滑な就労支援を図るため、無料職業紹介所を設置し、職業紹介等を実施	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
8	働きがいも経済成長も
11	住み続けられるまちづくりを

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	3.いきいきと働けるまちづくり
施 策	(2) 勤労者福祉の向上

■現状と課題

生産年齢人口の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、テレワークなど多様な働き方への対応が求められています。また、勤労者の誰もが自身の能力を十分に発揮しながら、安心していきいきと働くことができる社会を実現するため、男性の育児や家事への積極的な参加を促す仕組みづくりなど、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりが求められます。

■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
年次有給休暇の消化率	富山県内の労働者の年次有給休暇の消化率	様々な機会を通じて周知・啓発を図ることにより、65.0%を目指す。	58.8% (令和元年)	65.0%
次世代育成支援対策推進法に基づき「子育てサポート企業」として認定を受けた市内企業数	次世代育成支援対策推進法に基づき、一定の基準を満たし、厚生労働大臣の認定（くるみん・プラチナくるみん）を受けたことがある市内企業の件数	様々な機会を通じて周知・啓発を図ることにより、各年度において、1件の増加を目指す。	22件 (令和2年度)	27件

■施策の方向

①勤労者福祉の向上

企業における労働環境の改善のため、**時間外労働やメンタルヘルスなどを含め**、適正な労働管理や有給休暇の取得などについて、関係機関と連携を図りながら啓発活動に努めます。

また、中小企業の勤労者等に対する福利厚生事業を実施する（公財）富山市勤労者福祉サービスセンター（Uサポートとやま）の適正な運営を支援します。

さらに、退職金共済制度への加入に対する支援など、勤労者の生活安定に努めるとともに、呉羽ハイツやとやま自遊館などの勤労者福祉施設の利用促進を図ります。

②仕事と生活の調和がとれた職場環境づくり

仕事と生活の調和の推進に向け、年次有給休暇の取得促進などについて、周知・啓発活動に努めます。

また、育児・介護休業制度など、様々な機会を通じて、普及・啓発に努めます。

■市民に期待する役割

* 仕事と生活の調和がとれた職場環境の整備。

* 高齢者や女性などの活躍推進。

* 男性の育児休業の積極的な取得や家事への参加。

■総合計画事業概要

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
5	ジェンダー平等を実現しよう
8	働きがいも経済成長も

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	3.いきいきと働けるまちづくり
施 策	(3) 二地域居住・移住の支援

■現状と課題

全国の自治体を対象に行われる各種調査において、本市の暮らしやすさを示す各種指標は、トップクラスにあり、新型コロナウイルス感染症の拡大により、首都圏の一極集中が見直されている中であって、定住・半定住の促進に向け、より効果的な情報発信や受入体制の構築が必要です。

■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
マルチハビテーション推進事業補助件数	富山市マルチハビテーション推進事業の補助累計件数	補助制度を活用し、毎年2件の二地域居住者の受入を目指す。	11件 (令和元年度まで)	25件

■施策の方向

①マルチハビテーションの推進

都市部の居住者（大都市圏等の住民）などが、週末や季節に応じて、本市に滞在する二地域居住（マルチハビテーション）は、広域交流の推進と、地域・経済の活性化をもたらすこととなり、将来的な移住・定住も期待出来ることから、二地域居住先として本市を選択してもらうきっかけとして、まちなかに住宅を取得する県外居住者を支援します。

■市民に期待する役割

*二地域居住者へのおもてなし及び移住者との積極的な交流。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度)実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
マルチハビテーション推進事業	マルチハビテーション推進補助累計13件	マルチハビテーション推進補助 2件/年の増
選ばれるまちづくり事業(シティプロモーション) (再掲Ⅳ-2-(1))	シティプロモーション全国広告事業 富山イメージアップ事業の推進	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
11	住み続けられるまちづくりを

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	4.歴史・文化・芸術のまちづくり
施 策	(1) 伝統的文化・文化遺産の保全・活用

■現状と課題

岩瀬地区のまち並みなど、その地域ならではの歴史や伝統文化を物語る貴重な資源を活用し、まちの活性化につなげていくことが求められます。

同時に、伝統的な建造物群の老朽化対策のほか、伝統文化の担い手の高齢化や後継者不足が顕在化している状況を踏まえ、次世代への伝統文化継承のための対策が必要となっています。

また、これまで育まれてきた富山のガラス文化を継承し、さらに発展させていくため、その担い手であるガラス作家の育成や定着に取り組む必要があります。

富山市内の国指定文化財一覧

No	種別	名称
1	建造物	浮田家住宅(主屋・表門・土蔵)
2	建造物	旧森家住宅
3	建造物	富岩運河水閘施設(中島閘門)
4	建造物	常願寺川砂防施設(白岩堰堤、本宮堰堤、泥谷堰堤)
5	絵画	絹本著色法華経曼荼羅図
6	絵画	紙本著色三十六歌仙切(重之)佐竹家伝来
7	彫刻	木造十一面観音立像
8	彫刻	木造聖観音立像
9	工芸品	太刀 銘一助成
10	工芸品	太刀 銘次忠
11	工芸品	太刀 銘真守造
12	工芸品	太刀 銘吉家作
13	工芸品	刀 銘住東叡山忍岡辺長曾祢虎入道／寛文拾一年二月吉祥日
14	工芸品	脇差 無銘伝正宗
15	書跡	仏祖正伝菩薩戒教授文
16	考古資料	境A遺跡出土品
17	考古資料	硬玉製大珠(富山県氷見市朝日貝塚出土)
18	有形民俗文化財	富山の売薬用具
19	無形民俗文化財	越中の稚児舞
20	史跡	北代遺跡
21	史跡	直坂遺跡
22	史跡	王塚・千坊山遺跡群
23	史跡	安田城跡
24	特別天然記念物	薬師岳の圏谷群
25	天然記念物	真川の跡津川断層
26	天然記念物	猪谷の背斜・向斜
27	天然記念物	横山楡原衝上断層
28	天然記念物	新湯の玉滴石産地

■目標とする指標

■施策の方向

①文化遺産等の保全・活用

地域の活性化を図るために、岩瀬地区などの歴史的な景観を形成している伝統的な建造物群を、文化財として保存・活用することに努めます。

また、国指定の伝統工芸品である「越中和紙」や県指定の「とやま土人形」、「富山木象嵌」をはじめとした各種伝統工芸を守り育てるため、その技術の継承と振興に努めます。

②新たな文化の育成

市民に浸透してきた富山ガラスのさらなる普及に努め、ガラスの街としての本市の認知度を高めるとともに、富山のガラス作家の育成や定着に努めます。

■市民に期待する役割

* 地域の共有財産である文化財の歴史や価値に対する正しい理解と、活用の担い手としての意識の醸成。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
文化遺産等保全活用推進事業	旧馬場家住宅保存活用整備事業	岩瀬地区北前船廻船問屋相互活用整備事業

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
4	質の高い教育をみんなに

まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	4.歴史・文化・芸術のまちづくり
施 策	(2) 質の高い芸術文化の発信

■現状と課題

本市では、ガラスをテーマとした政策をまちづくりの柱のひとつとして、ガラスに携わる人材の育成、産業化の推進、芸術の振興という3つの観点からさまざまな取組を行っており、平成27年に開館したガラス美術館は、国内外のガラス作家の個展や特別企画展の開催により、開館5年目には来場者が100万人を超えるなど、その認知度も高まっており、ガラスが本市の新しい産業・芸術文化として市民等に浸透してきているところです。

今後は、「ガラスの街づくり」のネクストステージを目指して、ガラス造形研究所・ガラス工房などが集積する「ガラス・アート・ヒルズ富山」とガラス美術館が一体となって、国内外にその魅力をさらに発信することが求められます。

また、次代を担うガラス作家の定住・定着を図るため、活動基盤の充実や「富山ガラス」のブランド価値を向上させ、販路を拡大することが必要です。

さらに、ガラスを産業観光や中心市街地でのイベントの素材とすることにより、関係人口や賑わいを創出することも求められます。

一方、江戸時代から続く「富山の売薬」の薬袋や売薬版画等の製作から発展した本市のデザインは、全国的にも優れ、高いレベルにありますが、より市民や企業の関心を高める必要があります。

このことから、富山デザインフェアの開催などを通して、商業デザインの振興等に努めており、今後も、若手デザイナーの育成や活動支援が求められます。

富山ガラス造形研究所卒業生進路一覧

進路先		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
進学	研究科	1	3	1	1	2
	留学	0	0	0	0	0
就職	富山ガラス工房	1	0	2	0	0
	ガラス関係会社	4	4	5	3	4
	公立工房	1	0	0	1	0
	個人工房（独立含む）	0	0	1	0	5
	教育関係	0	0	1	1	0
研修		1	1	2	1	1
その他		12	11	8	11	4
合計		20	19	20	18	16

※1…工房で研修者として制作する者や、アシスタントをしながら見習い修行を行う者

※2…工房等でアルバイトをしながらガラス作家活動をしている者を含む

富山ガラス工房の利用状況

(人)

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入館者数	101,596	101,086	98,946	97,139	68,557
1日平均	284	283	277	271	224
吹きガラス等体験者数	12,988	13,084	12,198	11,988	9,398

富山市ガラス美術館の入場者数

(人)

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
入場数	138,618	129,007	374,899	163,797	118,992
1 日平均	411	383	1096	480	302
開館からの累計数	265,225	394,232	769,131	932,928	1,051,920

■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
ガラス関連施設への入場者数	ガラス美術館で開催する常設展及び企画展への入場者数と富山ガラス工房の入館者数	ガラス美術館は、平成 27 年の開館から毎年 12 万人以上の入場者数を維持しており、魅力的な展覧会や関連イベントの開催を通して、入場者数の維持を目指す。 富山ガラス工房は、ガラス体験メニューの充実等により、入館者数の維持を目指す。	187,500 人 (令和 2 年度)	228,000 人
ガラス関連商品の売上高	ガラス美術館内ショップ及びガラス工房でのガラス関連商品売上高	「富山ガラス」のブランド価値を向上させ PR することにより、ガラス関連商品の売上高の増加を目指す。 ①ガラス美術館ショップ 20,000 千円×5 年 ②ガラス工房（ショップ、体験） 120,000 千円×5 年	132,400 千円 (令和 2 年度)	700,000 千円 (令和 4 年度から令和 8 年度累計額)
富山デザインフェア入場者数	市が主催する富山デザインフェア開催期間中の入場者数	デザインフェアの内容を充実させ、より多くの方に商業デザインに親んでもらえるよう、コロナ禍となる前の平均入場者数（平成 29 年～令和元年の平均値約 2,000 人）の 1.5 倍の入場者数を目指す。	1,383 人 (令和 2 年度)	3,000 人

■施策の方向

①「ガラスの街とやま」の推進

ガラス美術館では、国内外の現代ガラス作品等の調査研究、良質な作品・資料の収集保存、市民がガラス芸術を身近に感じ誇りに思える企画展示などに取り組みます。

また、現代ガラス芸術のみならず、絵画や工芸など、幅広い分野で多くの方々に気軽に楽しんでもいただける多彩で魅力的な展覧会を数多く企画するなど、開かれた美術館運営を展開します。

さらに、各種機関、施設と連携して国際的な公募展を開催するなど、「ガラスの街とやま」の認知度の向上に努めるとともに、ストリートミュージアムの再編、建築や構造物とガラスの融合など、ガラス工芸の新しい表現領域の開発、作家の育成機能の強化、ガラス作品の販売促進などに取り組み、産業化の推進や作家の定着支援にも努めます。

②デザインの普及とデザイン活動への支援

国内トップクラスのデザイナーから、学生の作品まで幅広いジャンルの作品を展示する富山デザインフェアを通じて、市民や企業の方々にデザインへの関心・理解を深めていただくとともにデザ

イン産業の振興を図ります。

また、デザインサロン富山を通して、デザイナーや学生の活動を支援します。

さらに、本市が主催するイベントなどのポスターを、著名デザイナー等による選定委員会で採択することで、デザイン性の高いポスターにより、効果的なPRに努めます。

■市民に期待する役割

*ガラス美術館などが実施する展覧会や普及事業への積極的な参加。

*デザインフェアへの来場などによるデザインの普及やデザイン活動への理解。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成29年度～令和3年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和4年度～令和8年度)
ガラスの街づくり 事業	ガラス美術館の運営(作品収集保存、調査研究、展覧会開催、教育普及、広報活動、富山ガラス大賞展の開催等) 富山ガラス工房事業(ブランド化、作家育成定着支援)	事業の継続実施
富山デザインフェア 開催事業	富山デザインフェアの開催(毎年)	事業の継続実施

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
4	質の高い教育をみんなに
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
11	住み続けられるまちづくりを

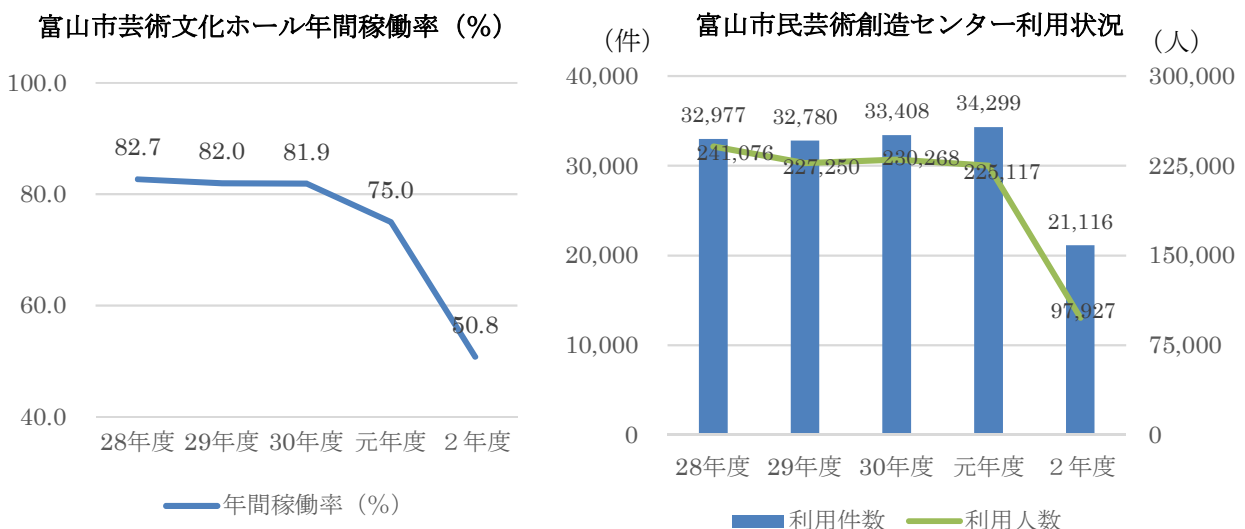
まちづくりの目標	Ⅲ人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政 策	4.歴史・文化・芸術のまちづくり
施 策	(3) 市民の芸術文化活動への支援

■現状と課題

社会の成熟化に伴い、人々の考え方が、物の豊かさを重視する考えから、精神的な満足感や心の豊かさを重視する方向へ変化する中、本市では、芸術文化が持つ創造性や文化の力を福祉、教育、地域経済等も含めたまちづくり全般に波及させ、市民がいきいきと暮らし、まちが将来にわたって活性化することを目指して策定した「富山市文化創造都市ビジョン」に掲げる理念を尊重した行政運営に取り組んでいます。

また、新型コロナウイルス感染症が市民生活に深刻な影響を及ぼし、社会全体が閉塞感に包まれている中においては、人々に感動や生きる喜びをもたらす、社会全体を活性化させる芸術文化が果たす役割はさらに重要となっており、優れた作品の鑑賞機会の提供や、市民の芸術文化活動の場となる、施設整備や発表の場の提供に加え、ウィズコロナ、アフターコロナ時代に相応しい多様な芸術文化の鑑賞スタイルの構築などが求められています。

また、次代を拓く心豊かな「ひと」を育むため、子どもたちが芸術文化にふれる機会を提供するなど、芸術文化を支える人材の育成が重要となっています。



■目標とする指標

指標名	指標の説明	目標設定の考え方	基準数値	目標数値
主催公演の入場者率	富山市民文化事業団が主催する公演の入場可能座席数に占める入場者の割合	多様で質の高い芸術文化公演を提供し、80%以上を目指す。 (令和2年度の基準数値は新型コロナウイルスの影響を著しく受けているため、過去3年(平成29年度～令和元年度)の平均値約76%を参考とした。)	57.7% (令和2年度)	80%

■施策の方向

①優れた芸術文化に親しむ機会の充実

文化創造都市ビジョンに基づき、市民に多様で専門性の高い公演等や質の高い文化事業を提供するとともに、参加・交流ができる事業にも取り組むなど、優れた芸術文化に親しむ機会の充実に努めます。

また、富山市美術展や市民ミニコンサートなどを通じて、市民の創作活動の発表及び鑑賞の場を提供します。

さらには、市民文化事業団や桐朋学園富山キャンパスと連携し、様々な場における演奏会の開催や、オーバード・ホール等で開催する公演等のオンライン配信などにより、日常の暮らしの中で、より身近に芸術文化に触れることができる機会の充実に努めます。

②市民の芸術文化活動拠点の充実

オーバード・ホールや市民芸術創造センター等の芸術文化活動拠点について、市民に安心して利用いただけるよう、長期保全計画に基づき予防的な更新や修繕を行い、施設の機能の維持・充実に努めます。

また、中規模ホールの整備により、市民が優れた芸術文化に親しむ機会の充実や市民の文化活動の発表の場の拡充を図るとともに、富山駅北エリアの新たな賑わいの創出に努めます。

③市民の芸術文化活動への支援と人材の育成

芸術文化団体が開催する文化事業に対して支援を行うことにより、芸術文化を支える人材の育成に努めます。

また、子どもたちが芸術と触れ合える機会を提供する活動の支援や、プロの演奏家から直接指導を受ける機会を提供することにより、次代の芸術文化を担う人材の育成に努めます。

■市民に期待する役割

* 音楽や演劇、美術などの鑑賞や創作活動の実施。

* 芸術文化活動を通じた人との交流。

■総合計画事業概要

事業名	前期計画(平成 29 年度～令和 3 年度) 実施状況(見込み)	事業の概要(令和 4 年度～令和 8 年度)
市民文化振興事業	(公財) 富山市民文化事業団へ委託	事業の継続実施
富山市美術展の開催	富山市美術展の開催	事業の継続実施
中規模ホール整備 官民連携事業	中規模ホールの整備	中規模ホールの整備・運営

■関連が深いと考えられるSDGsの目標

番号	目標名
4	質の高い教育をみんなに
11	住み続けられるまちづくりを